



BOOKS×CAFEな図書館はあたりまえ



各地にこども図書館や絵本館が続々と登場



「お子さんの放牧OK!」親子ともにのびのび



速報 議会で狛江市長も「Small is Cool」の発言



狛江市議会 令和三年度予算特別委員会(2021年3月11日)質疑において、
狛江市・松原市長は「Small is Cool」に関し、次のように発言されました。

市民センターを考える市民の会からの提案書にあるコンセプト「Small is Cool」については、とても共感できるものです。

(中略)

それぞれの場所で「小さな発見」があります。そして、「本と本」、「本と人」、そして「人と人」が「つながる世界」に進化します。

そのことは、図書館が地域の知を支えるだけでなく、コミュニティを形成し、まち全体の発展を促していくと言うことです。

新図書館が何かを見つげられる場所、そして市民の皆様の笑顔があふれるような「小さなまちの宝箱」のような施設となるよう、市民の皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

お金に余裕がない狛江市で、お金を使わずアタマを使った、市民全体のための市政を目指します。

無所属の狛江市議会議員
**三宅まことの
市政レポート**
Vol.19 2021年3月号

市政報告レポート 2021年3月号【発行】狛江でわかりやすい政治を伝える会
〒201-0004 狛江市岩戸北3-18-8-701 TEL:090-3815-6045 FAX:03-3489-1677

公式HP <https://三宅まこと.com>

Small is Coolってこまえっぽい

昨年秋に狛江市は、老朽化した市民センターを改修し、新図書館を新たに整備する基本方針を示しました。もうすぐ新年度が始まりますが、市から本格的な情報提供が始まり、広く市民の皆様の声をお聞きしながら基本構想等の策定が始まります。

そもそも、狛江の図書館は長年にわたり、市民要望が強く、ご関心が高かった公共施設です。今後、お寄せいただくご意見は多岐にわたると思います。

こんなことを考えてみたら、楽しいかもしれません。今までの図書館では許されなかった、コーヒーを飲みながらゆっくり読書ができる場所になったら楽しいんじゃないかなあ。

本が迫ってくるような圧迫感を感じることのない、居心地の良い空間デザインになったらいいなあ。

子育て世代が多い狛江市の名物となるような児童書・絵本専門館や、家や職場ではないサードプレイスとしての機能も欲しいなあ。

さあ今度は市民の皆様のご意見をお寄せください。

今号では、小さな狛江市らしい公共施設の在り方という意味で「スモール・イズ・クール」という考え方を紹介します。ご参考の一助になればと思い、中面では3つのFACTをお伝えします。

どうぞ春の一日、温かいお飲み物と一緒に、ゆったりとした気分で見たい新しい図書館像に思いを馳せてみてください。

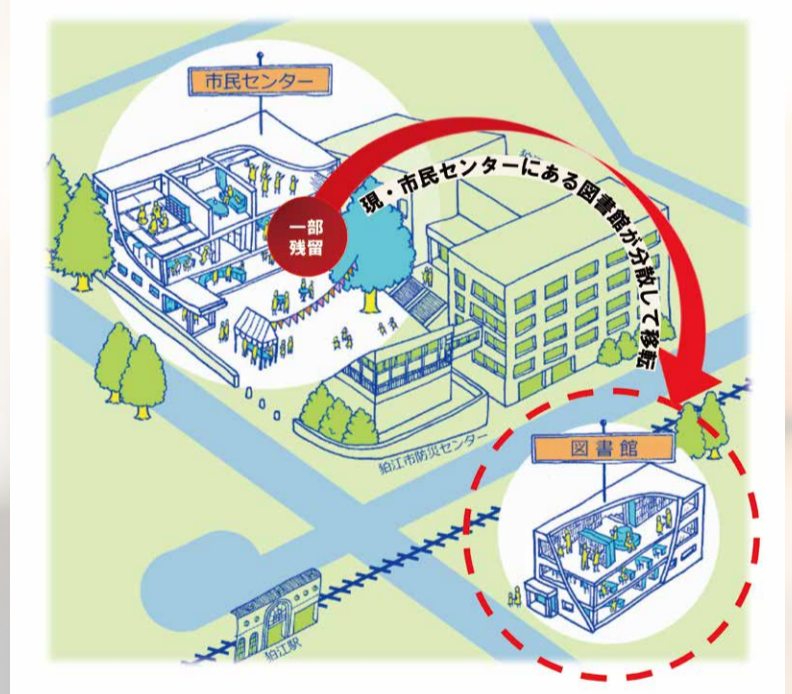


小さいことはかっこいい Small is Cool

日本で2番目に小さな狛江市には小さなまちの良さを生かしたまちづくりが必要です。私たちの街、小さな狛江市に相応しい新しい図書館には、どんな機能が必要でしょうか。

新図書館は移転でなく 一部を残した分散です。

昨年秋に狛江市は新しい市民センター(中央公民館・中央図書館)の基本方針を示しました。下のイラストの通り、現在の市民センター内の中央図書館は一部の機能を残しながら、市役所から至近の場所に新しく建設され、分散という形をとります。この基本方針に沿い、いよいよ本年4月から本格的な基本構想、基本設計が策定されることとなります。



適正な蔵書数とは？

私は以前、市民の方々から次のような陳情をいただきました。「狛江の図書館は本の数(蔵書数)が少なく、現在の倍の35万冊の蔵書が収容できる図書館を作ってほしい」というものです。その際に、私は市役所を中心に半径2kmの円の中にスッポリ収まる小さな狛江市では蔵書数の多寡でなく、今後のデジタル社会に対応した電子書籍へのシフトと共に、居場所としての役割(家と職場以外のサードプレイス)が必要ではない

でしょうか、と申し上げました。

「Small is Cool」という言葉は、狛江市と協定を締結した「市民センターを考える市民の会」の市民提案書(2016.3.31)の中でコンセプトとして示されたものです。

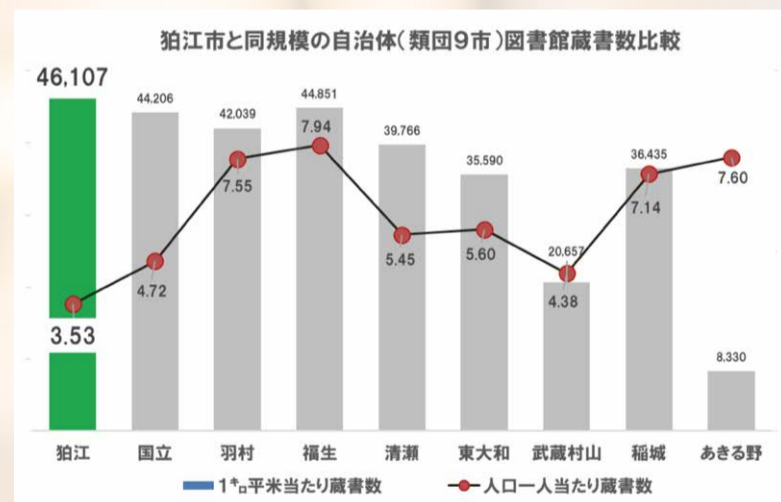
私は小さな狛江らしい特長ある公共施設の在り方をわかりやすく示したSmall is Coolという考え方に賛同します。

面積当たりで比較すると 狛江の蔵書数は多い。

さて、小さな狛江市としての特長を図書館の蔵書数で具体的に検証してみます。

市民一人当たりの蔵書数と市の面積1kmあたりの蔵書数を、狛江市と同規模の自治体(類似団体9市)間で相対比較したグラフを作成しました。

※各市人口、蔵書数は2020年4月現在で計算



その結果、市民一人当たりの蔵書数は3.53冊と9市の中で最小の数字となります。一方、市の面積6.39kmと小さな狛江市では、面積当たりの蔵書数は46,107冊と最大の数字になります。数字のレトリック!だと憤慨される方もいらっしゃると思いますが、事実として提示させていただきます。

いずれにしろ、小さな狛江市では大きな公共施設を建設できるような土地は限られていますし、蔵書数でも今後のデジタル社会を踏まえ電子図書を増やすことで、物理的なスペース(閉庫倉庫)を極小化していく発想が求められます。

面積が小さいからこそ、まちの中心から近い距離で つないでいく発想は狛江市の強み 半径2.5kmに11施設。

狛江市は市役所(中央図書館)を中心に半径2kmにスッポリと収まる大きさです。ちょっとだけ足を伸ばしていただくという意味で市内外を含めて半径2.5km圏内にある図書館・分館を地図にプロット(川崎市除く)してみました。そうしますと、狛江市民は隣接する調布市・世田谷区の施設サービスも利用で

きますので、計11施設、全体で総計60万冊以上の蔵書数を利用できることになります。今後はまちの中心に建設される新図書館をハブとして、市内6か所の施設で役割分担を持たせる等、柔軟な発想が求められます。

面積が小さいからこそ、まちの中心から近い距離でつないでいく発想ができる、これは狛江市の大きなメリットです。



三宅まことがお伝えした3つのFACT

- ① 新図書館基本方針は「移転」ではなく、「一部を残した分散」。
- ② 小さな狛江市では、1kmあたりの蔵書数は他市より多い。
- ③ 市役所から半径2.5km内で60万冊の蔵書を利用できます。更に狛江駅からバス20分の調布市中央図書館には89万冊の蔵書があります。

子供たちが未来にも使いやすい新しい図書館を作っていきましょう。今まで図書館を利用していなかった方々のご意見もお待ちしております。

三宅まこと

ご意見はホームページお問い合わせフォームから

